

2018年10月31日  
JOPCA 会報第50号  
特別記念号

# JOPCA 25年の歩み

国際港湾交流協力会

## JOPCA25 年を振り返って

理事(東光コンサルタンツ) 堀尚義

JOPCA 創立 25 周年誠にありがとうございます。四半世紀に亘り法人・個人会費だけで今日まで営々と着実に実績を積み上げてこられている歴代会長様はじめ役員・会員の皆様に感謝と尊敬の意を表したいと思います。

思い起こしますと 25 年前当時の山下生比古事務局長代行から突然お呼び出しが上がり、この度国際港湾に関して純粋なボランティア活動として JOPCA の設立を計画している。その理事候補者としてノミネートしているがどうか? とのお話を受け賜まったのが JOPCA との最初の出会いです。恐る恐る他の候補者のお名前をお伺いしたところ、錚々たる大先達ばかりで何で私のような若輩が候補者なのか? とまず我が耳を疑ったものです。

また第 1 回目ということもあって、衆議院議員選挙に際して同時に実施される最高裁判官は国民の信を問う〇×式で可否を問われているが今回もこの方式で可否を問うとのことでした。候補者選定のこの形式は 5-6 年続いたかと記憶しております。山下生比古事務局長代行に「大変名誉なお話ではありますが、他の候補者の方と比べて余りにも見劣りすること、また私だけが×を受けたら折角推薦頂いた山下事務局長代行のお顔に泥を塗るような結果になる」ので強くご辞退を申し入れたのですが、「その時はその時人間何事もやってみなければ分からないもんだよ」と豪快に笑って説得されてしまいました。おそらく私だけが民間育ちで一人位出来の悪いのを入れておいたほうがお役人とは違う発想があるのではないかと、また噛ませ犬の役割位果たせるのではとのお考えだったと今振り返っております。

歴代会長の許、長年にわたり理事の末席を何もせず汚し続けてまいりましたが、初代竹内会長には JOPCA 創立の精神すなわちボランティア活動とはそもそも何であるかをご指導頂きました。正に偉

大な大先達とは凡人と違う高邁な思想をお持ちなのだどつくづく敬服した次第です。創立間無しに事業計画を会費とのバランスで今後どう運営するかについて



議題になったことが有ります。その際一刀両断のもと金を貯めることより事業を継続することが一番であるとのこと英断のもと JOPCA の今日の礎が築かれたことは皆様ご存知の通りであります。

西田 2 代目会長には JICA が主力となって調査を進めていた第二パナマ運河代替案調査で当時運輸省から社会開発部長として出向されていた西田幸男部長に私は JICA の特別調査室のスタッフコンサルタントとしてお仕えした経緯があります。調査予算は当時の金で 2000 万ドル(当時邦貨レート 1 ドル 220 円)と破格の予算で日米パの 3 か国均等割でした。思惑の違う 3 か国が共同で調査を進めることは大変な政治的配慮が求められるものですが、外には 3 か国、内には外務省、旧運輸省、旧建設省、旧通産省の 4 省体制での事業の遂行には大変なご苦労があったことをしみじみ思い出しております。

JICA へ出向された会員の方が大勢いらっしゃいますが、港湾関係で研修員として JICA で研修に来られそれぞれのお国で要職に就いておられるかつての研修生との同窓会を立ち上げられましたのも西田 2 代目会長の時代です。現 3 代目池田会長も更に継続発展されていることは周知の通りであります。

最近の JOPCA の活動は会員の皆様がよく知られているところで、今回「JOPCA25 年を振り返って」とのことで昔を思い出して駄文を書かせて頂きました。